



平成 21 年 12 月 3 日
社団法人 日本オーディオ協会

「音の匠」顕彰について

日本オーディオ協会は、音楽・オーディオ・レコード・放送など「音」の文化について多くの人々に認識していただき、オーディオ文化と産業の発展のために、(社)日本レコード協会、(社)日本音楽スタジオ協会などと協調して、1994 年に 12 月 6 日を「音の日」と決めました。

この 12 月 6 日は、かの発明王トーマス・エジソンが 1877 年、世界で初めて蓄音機「フォノグラフ」を発明した日であり、まさに音の文化、ひいてはオーディオの誕生日ということになります。

当協会ではこの「音の日」にちなみ 1996 年より、音を通じ私たちの暮らしに関わり、社会に貢献しておられる方々を「音の匠」として顕彰しています。

「音の匠」顕彰者一覧

- 1996 年 針谷 照氏 (東日本旅客鉄道株式会社上野保線区)
- 路線の状態を小ハンマーによる打音で判断
西日本旅客鉄道株式会社 技術開発推進部
- パンタグラフの風切り音の低減により時速 300 キロの新幹線「のぞみ」運行
- 1997 年 前田 仁氏
- 讃岐特産の石「サヌカイト」をもとに楽器を製作し音の文化の向上に努める
篠原 儀治氏
- 江戸風鈴の技法に独自の工夫を加えながら伝承している
明珍 宗之氏
- 鍛冶の技法による伝統工芸を守り独自の火箸風鈴を考案し伝承している
- 1998 年 高橋 美智子氏・佐々木硝子株式会社
- 伝統あるガラスの楽器・グラスハーブの製造と演奏活動
- 1999 年 松下 和生氏 ((社)日本ピアノ調律師協会会員)
- 演奏家が求める音色等、演奏者を支える重要な役割を担うピアノ調律
- 2000 年 清水 虔氏 (びんてふ友の会名誉会長)
- 紀州備長炭によるビブラフォンを製作
- 2001 年 竹内 正実氏
- 世界初の電子楽器といわれるテルミンによる積極的な演奏活動や出版活動
- 2002 年 服部文雄氏(ビクターエンタテインメント)、馬場哲夫氏(ソニーミュージックコミュニケーションズ)、梅沢清氏(日本コロムビア)、東孝一氏(松下電器産業)、柿沼敬二氏(東芝 EMI)、成瀬庸介氏(ソニー)、鶴島克明氏(ソニー)、木目健治朗氏(三菱電機)、林英昭氏(日本コロムビア)、鈴木雅臣氏(アキュフエーズ)、池戸勇二氏(パイオニア)、西川和男氏(パイオニア)、桑岡俊治氏(日本ビクター)、阿部忠氏(松下電器産業)、田中伸一氏(松下電器産業)、安田博氏(松下電器産業) Joop Sinjou 氏(フィリップス)、Jacques Heemskerck 氏(フィリップス)、土井利忠氏(ソニー)、小川博司氏(ソニー)(順不同)
- CD の開発および改良に貢献した技術者 20 名 (CD 発売 20 周年記念)

- 2003年 玉井 和雄氏 ((元)文化放送 編成局 制作部)
今井 裕氏 (日本放送協会 放送技術局)
久保 光男氏 (日本放送協会 放送技術局)
- テレビ放送 50周年にちなみ番組制作での音響デザインや効果音制作活動
- 2004年 野田 眞弘氏 (株)野田鶴声社
居石 浩己氏 (日本放送協会 放送技術局)
井上 哲氏 (テレビ朝日映像(株)技術局)
- オリンピック年にちなみスポーツ分野で音の技術と文化に貢献した方々
- 2005年 内沼 映二氏 ((株)ミキサーズ・ラボ)
沢口 真生氏 (パイオニア(株))
西尾 文孝氏 (ソニー(株))
(特別賞) エリオット・シャイナー氏 (米国・制作・録音技術者)
- ステレオからサラウンドまでソフト・ハードの垣根を越えて取り組む方々
- 2006年 三宮 麻由子氏 (エッセイスト)
- 聴覚の素晴らしさの啓発活動
- 2007年 森田 健次氏 (給水部給水課) 越坂部 信男氏・氏井 行雄氏 (中央支所給水課)
古川 敏雄氏・西生 智憲氏 (東部第一支所給水課) 大畠 秀男氏・軽部 晴久氏
(東部第二支所給水課) 守嶋 靖之氏・齋藤 純一氏 (西部支所給水課)
高橋 寿氏・伊東 松見氏 (南部第一支所給水課) 田中 功之氏・門馬 光成氏
(南部第二支所給水課) 安田 幸作氏・加藤 真氏 (北部支所給水課)
- 音聴技術を用いて漏水の発見に努め水資源の有効活用に貢献する東京都水道局の職場代表の方々
- 2008年 中村 啓子氏 (ナレーター)
- 公共機関における明瞭で親しみのある案内活動
(特別賞) 山下 桜氏 (パイオニア(株))
- 聴覚に障害がある人達に音楽を楽しんでいただく活動